



娯楽



士別駅周辺は、商業地として様々な商売が店を開きました。飲食店では、宴会場、カフェなどの遊興場があり、店先からは蓄音機から音楽が流れているような賑わいが見られました。また、各地に劇場があり、映画の上映や芝居などの興業が盛んに行われました。その中でも映画は、テレビが普及するまでの一番の娯楽でした。大正から昭和にかけて、蓄音機を持てるような裕福な家庭もみられるようになり、レコードが普及し始めました。

太平洋戦争以後、大衆文化として様々な娯楽がテレビの普及と共に流行しました。士別でテレビの放送が見られるようになったのは、昭和 33 (1958) 年からでした。ボーリング場などの遊戯場や喫茶店などの営業もあり、賑わいを見せました。

昭和後半になると生活スタイルが車社会へと移り変わるなかで、大衆文化は個人の趣向を尊重する個人主義的なものへ変化しました。娯楽やレジャーというと、自家用車で市外へ出掛けることが多くなっていきました。

